



都市史学会
Society of Urban & Territorial History

都市史学会主催・書評会

高橋康夫著

『海の「京都」——日本琉球都市史研究』

を読む

上杉本洛中洛外図屏風(左)、琉球進貢船屏風(右)

2016年6月19日 日 14:00-17:00 東京大学史料編纂所大会議室 (福武ホール地下1F・定員50名)

司会=高橋慎一郎(東京大学史料編纂所)

14:00 - 16:10

- 報告1 | 高橋 慎一郎(東京大学史料編纂所・中世史)
- 報告2 | 石井 龍太(城西大学・近世考古学)
- 報告3 | 岩本 馨(京都工芸繊維大学・空間史)
- 報告4 | 黒嶋 敏(東京大学史料編纂所・中世史)

16:20 - 16:40

リプライ | 高橋康夫(花園大学、京都大学名誉教授)

16:40 - 17:00

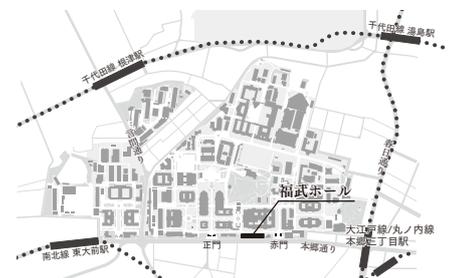
討論

参加について

事前申込は不要です。会員外の方でもご参加いただけます。
なお、資料代として500円を頂戴いたします。

東京大学史料編纂所大会議室
(福武ホール地下1F)

東京メトロ丸ノ内線・都営大江戸線本郷三丁目駅より徒歩7分、
東京メトロ南北線東大前駅より徒歩10分、千代田線根津駅より
徒歩15分、同湯島駅より徒歩20分。



高橋康夫氏は、『京都中世都市史研究』(思文閣出版、1983年)の著者、『日本都市史入門』I~III(東京大学出版会、1989~90年)の編者の一人であり、京都を主なフィールドとして、建築史から文献史への架橋を推進し、日本の都市史研究を常にリードしてこられました。

今回取り上げる氏の著書『海の「京都」——日本琉球都市史研究』(京都大学学術出版会、2015年)は、京都と首里・那覇を、海の「京都」=首都という視点から位置づけなおした壮大な著作であり、東アジア中世都市史の新たな可能性を切り開く画期的な成果と言えます。

書評会では、建築史・考古学・文献史の研究者4名が、京都と琉球を分担してこの1000頁を超える大著に挑み、今後の都市史研究の進展に寄与するために奮闘します。なお、著者もご参加くださる予定です。